

## 大聖寺の宝篋印塔

### 大聖寺の石造物

大聖寺（小川町下里）は、南北朝期の暦応3年（1340）に創建されたという寺院である。境内には、南北朝期の六角塔婆や板碑などがあり、当時の様相を物語る遺物として知られてきた。しかし、ほぼ同時期に成立した宝篋印塔については、あまり注目されてこなかったように思われる。そこで、以下では、この宝篋印塔を取り上げて、造立の主体や背景について検討していきたい。

### 大聖寺の宝篋印塔

大聖寺の宝篋印塔は、角閃石安山岩を加工して組み立てた供養塔で、基礎部の四面に銘文が刻まれている。その内容によれば、貞和5年（1349）5月4日、「日本国武州比企郡下里郷」の「大聖庵」において、「貞吉」を「逆修」するために「宝篋印塔一基」が造立されたという。この地が下里郷に属したことや、大聖寺を大聖庵と称したことなどが読みとれる。また、逆修とは、生前供養を意味しているので、「貞吉」は存命中の人物であり、この宝篋印塔を造立した主体だったと考えられる。

聖庵為 逆修貞 吉之宝 篋印塔	日本国 武州比 企郡下 里郷大	【史料】大聖寺 宝篋印塔
月四日 敬白	一基所 立如件 貞和五 年五月	

### 大聖寺の関係者

宝篋印塔を造立した「貞吉」は、大聖寺を拠点として活動する人物だったとみられる。なお、大聖寺では、康永3年（1344）3月、開山の希融や平貞義らによって六角塔婆が造立された。その供養には、大聖寺を取り巻く関係者が結縁しており、「貞吉」も参加していた可能性が高いだろう。そこで、この六角塔婆に刻まれた人名を参照しながら、「貞吉」の該当者について探ってみたい。

大頼円 式円有 道良慶 戒覚義 道良最 阿俊智 慶有	妙教実 心阿阿 性道道 心日基 契妙新 心義阿 全徳	一永 結範 之康 諸永 衆三年 敬白甲二月十七日 宗吉	国道実 吉日守 光守国 景弘守 重末守	光吉 守吉 常吉	浄心 光未 守	法心 德行 四信 善阿 光円 実心	檀那最阿 契昌 是観	開山希融 平貞義 祐仙 奉読誦法花 經一千部供養	【史料】大聖寺 六角塔婆
--	--	---	---------------------------------	----------------	---------------	----------------------------------	------------------	--------------------------------------	-----------------

六角塔婆の結縁者を一見しても、「貞吉」と称した人物は見当たらないが、「光吉」「守吉」「常吉」「国吉」「宗吉」らが列挙されており、いずれも「吉」の字を用いる点が共通している。そのため、従来の説では、宝篋印塔の「貞吉」は、六角塔婆に散見する「…吉」の一族だと考えられてきた。

### 「貞吉」の人名比定

では、六角塔婆の結縁者には、本当に「貞吉」の名前は存在しないのだろうか。当時の人名は、しばしば音が共通する別の漢字で表記されており、とくに金石文では好字（佳字）を用いて表現することが多かった。そうすると、「貞吉」は「サダヨシ」と発音するので、六角塔婆の「平貞義」に該当するのではないだろうか。つまり、「貞吉」＝「貞義」であり、宝篋印塔と六角塔婆では、ともに供養を主催して造立を主導していたと思われる。「貞吉」は、南北朝期に大聖寺を創建して、多様な石造物を寄進した人物であり、下里郷を支配する領主だったと推定できるだろう。

### 「貞吉」と板碑生産

さらに「貞吉」は、宝篋印塔や六角塔婆だけでなく、板碑の生産にも関わっていたと想定される。というのも、大聖寺が所在する下里郷の一角には、下里・青山板碑製作遺跡が存在しているからである。「貞吉」は、こうした板碑の生産拠点を押さえることで、武蔵国の各地に板碑を供給していた可能性があるだろう。このように、大聖寺の宝篋印塔を造立した「貞吉」は、板碑文化の発展に貢献した存在としても、東国社会で大きな役割を担っていたと推察されるのである。